岡山理科大学紀要 第38号 B pp. 53-72(2002)

大学生の資格取得に関する意識調査報告(その1)

ー岡山理科大学生の学業、資格取得への関心と態度ー

曽我雅比児・中島弘徳・小山悦司*

大盛候穂**・青山祐輔**・宮地豊尚**・坪井俊憲**

古田絵里子**・折居奨太**・畑山洋介**・井上智恵**

岡山理科大学理学部基礎理学科
*倉敷芸術科学大学国際教養学部
**岡山理科大学理学部基礎理学科科学教育学研究室学生
(2002年11月1日　受理)

はじめに

18歳人口の減少と大学進学率が50%を超えるユニバーサル化を迎えつつある大学間競争環境の中で、就職状況の善し悪しは大学の評価を大きく左右する要因になっている。ところで、昨今の就職難を背景にして学生の実学志向は強く、どのような資格を取得できるかが大学選択の一つのポイントになっている。そこで、大学側は学生獲得の手段の一つとして、就職実績を向上させると同時に大学教育に付加価値をつけるために、学生の資格取得に向けて「資格取得支援センター」や「エクステンションセンター」等の部署を設置し、積極的な支援活動を展開しつつある。ところで、学生の資格取得に関する意識について次の2点が考えられる。一つは、一般的に自分の専門に関連した資格に強い関心を持っているであろうという点。第2に将来の進路を真剣に考えている学生ほど、また一般的に就職において不利な立場に立たされがちな女子学生ほど、資格取得に強い関心を有しているであろうという点である。

このような問題意識のもとに岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学の4大学の学生を対象に「大学生の資格取得に関する意識調査」を本年1月に実施した。この4大学は、遠隔地教育や資格取得合同支援に向けて、2000年度から相互に連携プロジェクトを推進している。その一環として、資格取得に関するワークショップを設けて、学生の資格取得支援の在り方を検討してきた。一連の検討の過程で、まず学生の資格取得に対する意識や実態を把握することが先決だとの認識に基づき、支援方策を検討する上での基礎資格を得るために上記の合同調査を実施したのである。

本報告は、上記調査によって得られたデータから、岡山理科大学の学生分を抽出し、本学学生の学業姿勢や将来展望、そして資格取得に対する関心や取り組み状況を明らかにし分析することを目的とするものである。

Ⅰ. 調査の概要

① 調査の目的

加計学園と高梁学園に属する岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学の4大学の学生たちの学業に対する姿勢、職業選択への展望、資格・免許取得に関する意識・関心などを明らかに

することにより、学生生活の一層の充実を図る方策を検討するためのデータ収集を目的とした。

② 調査の対象者
岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学の全学部の学部生

③ 調査の実施機関
岡山理科大学理学部基礎理学科　科学教育学研究室（代表：曽我　雅比児）

④ 調査の実施時期
調査協力依頼・・・・平成 13 年 11 月（於：４大学連携協力推進会議）
平成 13 年 12 月（於：各大学の教授会等）
調査票発送・・・・・平成 13 年 12 月末
回収締め切り・・・・平成１４年 12 月末

⑤ 調査方法
それぞれの大学の教務部等を通して、調査に協力していただける先生を抽出し、講義時間の一部を使って学生自らに記入してもらい、回収する方法をとった。

⑥ 回収数と代表率
各大学の回収数を下に示す。また、平成 13 年 11 月１日現在における各大学の在籍者数も示した。総在籍者数 12,860 名中回収数が 6,956 件であるので、全学生の過半数を超える 54.1%の標本を集めたことになる。なお、岡山理科大学分については、代表率は 47.2%であり、他の大学より若干低い数値となった。

大学名	回収数	在籍者数	回収率（代表率）
岡山理科大学	３００８	６３６８	４７．２%
倉敷芸術科学大学	９４５	１６４４	５７．５%
吉備国際大学	２０３７	３４２３	５９．５%
九州保健福祉大学	９６６	１４２５	６７．８%
計	６９５６	１２８６０	５４．１%

Ⅱ．調査結果の分析

１．調査対象者の属性（フェースシート）

① 所属学部
全体で、3,008 名の回答があった。各学部の在籍者数と回答者数およびその比率は、理学部が 1,336 人。工学部が 1,157 人。総合情報学部が５１２人であった。

② 学年
各学年の在籍者数と回答者数およびその比率は、理学部の１年生が 437 人。２年生が 385 人。３年が 476 人。４年生が 16 人で、無回答が 22 人いた。工学部の１年生が 369 人、２年生が 304 人、３年生が 438 人、４年生が 25 人で、無回答が 22 人いた。総合情報学部の１年生 255 人、２年生が 101 人、３年生が 143 人、４年生８人であった。無回答は７人であった。４年生が 49 人と極端に少ないのは、調査の性格上、講義時間に行ったため４年生の受講が少なかったたことがあげられる。

③ 性別
各学部の男女比率とその数は、理学部は男子が 954 人、女子が 358 人、無回答が 24 人。工学部は、男子が 1,064 人、女子 70 人、無回答が 24 人であった。総合情報学部は、男子が 403 人、女子が 98 人、無回答が 13

人であった。

男女比は、全学部で男子学生の比率が高い。特に工学部では、94.0%が男子である。女子学生の数がより少ないことから、女性の意見については、考慮の余地を残していると言えるが、理科大全体として男女比では、男子学生が多いことから、理科大学の現状を把握していると思われる。

④ 既得資格

a. 英語検定

（1. １・準１級、2. ２級、3. 準２級、4. ３級、5. ４級、6. 5 級以下）

理学部

1. ５人、2. ０人、3. 166 人、4. 327 人、5. 147 人、6. 22 人。

工学部

1. ４人、2. 1 人、3. 66 人、4. 243 人、5. 149 人、6. 19 人。

総合情報学部

1. １人、2. ０人、3. 28 人、4. 134 人、5. 62 人、6. 15 人。

英語検定資格取得者は、上記の通りで、全学部を通して３級の取得者が多い。理系においても英語の必要性が高いなか、資格を持っていない学生が約半数いる。これは、理科大生の英語に対する苦手意識を表していると思われる。

b. 漢字検定

（1. １級および準１級、2. ２級、3. 準２級、4. ３級、5. ４級、6. ５級以下）

理学部

1. ４人、2. 23 人、3. 31 人、4. 61 人、5. 34 人、6. ９人、なし：1174 人

工学部

1. ２人、2. ８人、3. 14 人、4. 52 人、5. 34 人、6. 14 人、なし：1034 人

総合情報学部

1. ０人、2. 13 人、3. ８人、4. 24 人、5. 17 人、6. １人、なし：451 人

漢字検定資格取得者は、上記の通りで、資格を持っていない学生が多かった。資格取得者は、全学部を通して３級が多かった。

c. 珠算検定

（1. 段以上、2. １級、3. ２級、4. ３級、5. ４級以下）

理学部

1. 16 人、2. 18 人、3. 48 人、4. 79 人、5. 28 人。

2. 工学部

1. 12 人、2. 13 人、3. 39 人、4. 64 人、5. 21 人。

総合情報学部

1. ５人、2. ８人、3. 11 人、4. 22 人、5. ９人。

資格取得者の数が少ないが、その反面有段者もいる。これは、珠算検定を習い始める年齢が低いためと思われる。英語検定は３級が多かったこと、逆に、珠算検定では有段者が相対的に多かったことから、大学入学前に資格取得をしている可能性が高いと思われた。

d. ワープロ検定

（1. １級、2. ２級、3. ３級、4. ４級）

理学部

1. ３人、2. ７人、3. ６人、4. ４人。

工学部

1. ４人、2. 10 人、3. ９人、4. ２人。

総合情報学部

1. ０人、2. ４人、3. ５人、4. ３人。

理科大学の卒業後の就職先として、一般事務系が少ないためか、非取得者が多いと思われた。

⑤　教員免許・学芸員資格

a1. 教員免許取得希望
理学部
あり：461 人、なし：743 人
工学部
あり：118 人、なし：868 人
総合情報学部
あり：123 人、なし：329 人
教員免許取得希望者は、理学部が一番多かった。

a2. 教職課程
理学部
履修中：432 人、未履修：708 人。
工学部
履修中：71 人、未履修：865 人。
総合情報学部
履修中：112 人、未履修：320 人。
理学部と総合情報学部の学生は、免許取得希望者が実際に教職課程を履修中であることがわかる。工学部の学生は、取得希望者が 123 人いるが、その中で過半数が理科等の免許の取得も希望していると思われる。

b1 学芸員免許取得希望
理学部
あり：89 人、なし：986 人。
工学部
あり：65 人、なし：887 人。
総合情報学部
あり：85 人、なし：352 人。

b2. 学芸員課程
理学部
履修中：78 人、未履修：935 人。
工学部
履修中：36 人、未履修：881 人。
総合情報学部
履修中：75 人、未履修：347 人、無回答 90 人
学芸員資格は、総合情報学部の学生が一番高率である。工学部の学生は、資格取得希望があるものの履修に至っていない学生が多かった。

⑥　その他の資格（日本語教師・JABEE）
a 日本語教師
1. ぜひとりたい、2. できればとりたい、3. とるつもりはない、4. わからない
理学部
1. 96 人、2. 236 人、3. 567 人、4. 345 人。
工学部
1. 40 人、2. 171 人、3. 573 人、4. 315 人。

総合情報学部
1.36 人、2.78 人、3.240 人、4.128 人。

b JABEE
1.ぜひとりたい、2.できればとりたい、3.とるつもりはない、4.わからない
理学部
1.45 人、2.127 人、3.363 人、4.680 人。
工学部
1.39 人、2.140 人、3.345 人、4.557 人。
総合情報学部
1.15 人、2.43 人、3.163 人、4.255 人。

日本語教師資格取得と JABEE 資格取得を希望しない学生数が、取得希望学生数を上回っている。しかし、その反面、「ぜひとりたい」という熱心な学生もいることから、人数は少ないものの学生の期待にどう応えるかが課題といえる。

2. 調査結果

A. 大学進学の理由

問１　大学に進学しようと思った理由はどれですか？（１つ選択）
１．周囲の人からの影響があったから　　２．就職に有利だから
３．学びたいことがあったから（学ぶ意志）　４．自由な時間を持ちたかったから

本学学生全体では、大学進学の理由に「3.学ぶ意志」を答えた人が近くを占めている。次に多かったの「2.就職に有利」と答えた人で 28.4%である。「3.学ぶ意志」と「2.就職に有利」を答えた人を合わせると 70%以上になり４人に３人がこの回答を選んだことになる。

45.1%で半分

度数分布　：　問1

	度数	パーセント
0.無回答	17	.6
1.周囲の影響	421	14.0
2.就職に有利	855	28.4
3.学ぶ意志	1358	45.1
4.自由な時間	357	11.9
合計	3008	100.0

問１とのクロス集計の結果、学部と性別、学科で有意差が見られた。

パーセント（行）　：　学部，問1

	1.周囲の影響	2.就職に有利	3.学ぶ意志	4.自由な時間	合計
1.理学部	13.3	21.9	55.1	9.7	100.0
2.工学部	15.2	37.0	33.8	14.0	100.0
3.総合情報学部	13.7	27.0	46.3	13.1	100.0
合計	14.1	28.6	45.4	11.9	100.0

学部でクロス集計した結果、「3.学ぶ意志」の割合がもっとも多いのは理学部で 55.1%、工学部では「2.就職に有利」を答えた人が一番多く 37%であった。工学部を志向する学生は、学んだことが社会に出て役に立つという意識が強いようである。理学部を志向する学生は、勉学に興味関心を抱いて大学進学を決めた傾向があるようだ。

パーセント（行）　：　性別，問1

	1.周囲の影響	2.就職に有利	3.学ぶ意志	4.自由な時間	合計
1.女	11.5	16.0	67.7	4.8	100.0
2.男	14.7	31.2	40.8	13.3	100.0
合計	14.1	28.5	45.6	11.8	100.0

性別でクロス集計した結果、男性に比べて女性のほうが「3.学ぶ意志」で進学した人が 30%近く多い。一方男性のほうは「2.就職に有利」と「4.自由な時間」を理由に挙げた人が多い。女性の方は勉学に興味を抱いて大学を決める傾向が強く、男性の方は、就職を意識して大学を決める傾向が強いようだ。「4.自由な時間」と答えた人の中には、就職する前に、ハネをのばしたかったからという人がいると考えられる。

総合情報学部

パーセント（行）　：　学科，問1

	1.周囲の影響	2.就職に有利	3.学ぶ意志	4.自由な時間	合計
1.情科	14.1	32.0	40.7	13.3	100.0
2.シ物	10.6	15.2	60.6	13.6	100.0
3.生地	9.7	17.5	66.0	6.8	100.0
4.社情	18.6	32.4	30.4	18.6	100.0
合計	13.7	27.0	46.3	13.1	100.0

クロスの結果、「1.学ぶ意志」を理由に挙げた人がシミュレーション物理学科と生物地球システム学科では約 60%、情報科学科では 40%、社会情報学科では約 30%である。逆に、「2.就職に有利」を挙げた人は、情報科学科と社会情報学科では約 30%、シミュレーション物理学科と生物地球システム学科では、約 15%、約 17%である。シミュレーション物理学科と生物地球システム学科は「1.学ぶ意志」を選択する比率から理学部的傾向、情報科学科と社会情報学科では「2.就職に有利」を選択する比率から工学部的傾向があるといえる。

工学部

パーセント（行）　：　学科，性別

	1.女	2.男	合計
1.応化	14.9	85.1	100.0
2.機シ	1.0	99.0	100.0
3.電工	.4	99.6	100.0
4.情工	5.4	94.6	100.0
5.福シ	9.1	90.9	100.0
合計	6.2	93.8	100.0

パーセント（行）　：　学科，問1

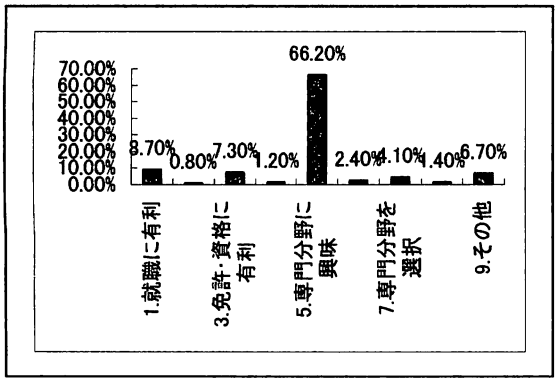
	1.周囲の影響	2.就職に有利	3.学ぶ意志	4.自由な時間	合計
1.応化	13.1	30.7	42.4	13.8	100.0
2.機シ	18.5	39.8	30.1	11.6	100.0
3.電工	18.9	46.9	21.1	13.2	100.0
4.情工	12.9	35.9	36.4	14.8	100.0
5.福シ	13.4	26.9	38.8	20.9	100.0
合計	15.2	37.0	33.8	14.0	100.0

クロスの結果、工学部ではどの学科も「2.就職に有利」と「3.学ぶ意志」とを答えた割合がともに 30%前後である。若干、応用化学科で「2.学ぶ意志」の割合が 42.4%と高い。電子工学科では「2.就職に有利」と答えた割合が 46.9%と高く、「3.学ぶ意志」と答えた割合が 21.1%と低い。この応用化学科と電子工学科の差の現われは、女子学生が所属している人数の違いによって現われているからだと考えられる。女子学生が所属する人数が多い応用化学科は「3.学ぶ意志」を答える割合が高く、逆に電子工学科では、男子学生が多く女子学生が少ないので「2.就職に有利」を答える割合が高くなると思われる。

B. 学科選択の動機

問２　所属学科を選んだ動機はどれですか？（１つ選択）

１．就職に有利だから　　２．卒業が楽にできるから
３．免許・資格の取得に有利だから　　４．教授陣にひかれたから
５．専門分野に興味があったから　　６．施設が充実していたから
７．入学して専門分野を決められるから　　８．実験や実習の時間が多いから
９．その他（　　）



学科選択の動機はグラフからもわかるように、「5.専門分野に興味」を選んだ人が全体で 66.2%と大半を占めていて、次に多い「1.就職に有利」を選んだ人が 8.7%となっている。大学進学の理由と所属学科を選んだ理由は、「5.専門分野に興味」と「1.就職に有利」を選んだ人の数において似た傾向であるが、所属学科を選んだ理由の方がその差が大きくなっているのがわかる。

問２とのクロス集計の結果、学科で有意差が見られた。

理学部

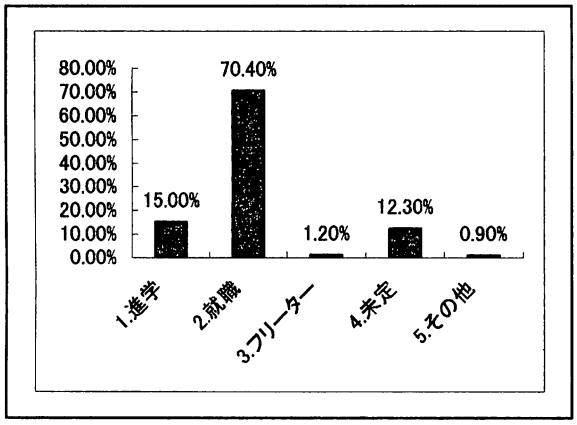
クロスの結果、基礎理学部を除く他の理学部の学科においては「5.専門分野に興味があって」という割合が高く、特に生物化学科では79.6%と高い割合である。その一方、基礎理学科では34.1%と最も低く、「7.専門分野を決められる」を選んだ人が28.5%と他の理学部学科より圧倒的に多い結果となっている。これは、基礎理学科の特徴が反映しているようである。

パーセント(行)　：学科，問2

	1.就職に有利	2.卒業が楽	3.免許･資格に有利	4.教授陣	5.専門分野に興味	6.施設が充実	7.専門分野を選択	8. 実験等の時間	9.その他	合計
1.応数	1.4	1.4	24.1	.4	60.4	1.4	1.8	.4	8.6	100.0
2.化学	3.0	.6	5.4	1.8	71.0	3.3	2.1	3.9	9.0	100.0
3.応物	.7	.7	3.7	.7	72.6	3.7	1.5	2.2	14.1	100.0
4.基礎	3.3	1.6	19.5	1.6	34.1	.8	28.5	1.6	8.9	100.0
5.生化	3.1	.2	7.8	.7	79.6	2.7	2.2	1.6	2.2	100.0
合計	2.5	.8	11.3	1.0	68.4	2.5	4.5	2.0	7.1	100.0

C．卒業後の進路

問３　卒業後、進路をどう考えていますか？（１つ選択）
１．進学　　２．就職　　３．フリーター
４．未定　　５．その他（　　）



グラフからもわかるように、卒業後、「2.就職」を希望している人が70.4%と大半をしめる。

問１と問３のクロス結果、有意差が見られた。

パーセント（行）　：　問1，問3

	1.進学	2.就職	3.フリーター	4.未定	5.その他	合計
1.周囲の影響	7.6	74.3	1.4	15.2	1.4	100.0
2.就職に有利	8.1	81.6	1.2	8.8	.4	100.0
3.学ぶ意志	24.3	62.6	.5	11.7	.9	100.0
4.自由な時間	6.2	70.0	3.4	19.0	1.4	100.0
合計	15.1	70.6	1.2	12.2	.9	100.0

問１と問３をクロスした結果、大学進学の理由に「3.学ぶ意志」と答えている人も、卒業後は「2.就職」を選んでいる人が多い。

問３とのクロス集計の結果、学部と学年、学科で有意差が見られた。

クロスの結果、理学部は「1.進学」を希望する学生が学部別で最も多く22.7%である。これは問１で、理学部が大学進学の理由に「3.学ぶ意志」の回答が一番多かったことも関係していると思われる。

パーセント（行）　：　学部，問3

	1.進学	2.就職	3.フリーター	4.未定	5.その他	合計
1.理学部	22.7	62.6	.9	12.4	1.3	100.0
2.工学部	9.5	76.9	1.7	11.4	.3	100.0
3.総合情報学部	7.6	77.1	.6	13.9	.8	100.0
合計	15.1	70.6	1.2	12.3	.9	100.0

クロス表から、学年があがるごとに「2.就職」を答える学生が増え４年生では89.6%までになっていることがわかる。逆「4.未定」「1.進学」の割合は減少する。学年が上

パーセント（行）　：　学年，問3

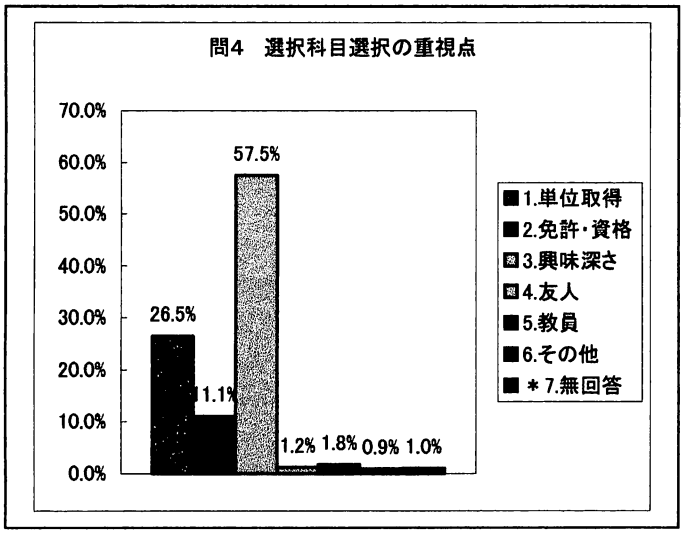
	1.進学	2.就職	3.フリーター	4.未定	5.その他	合計
1年	15.8	66.8	.7	15.9	.9	100.0
2年	11.9	69.5	1.5	15.9	1.1	100.0
3年	16.9	74.4	1.4	6.5	.8	100.0
4年	6.3	89.6	2.1	2.1	0.0	100.0
合計	15.0	70.6	1.2	12.3	.9	100.0

がるにつれて、現実的に将来のことを考え就職意識が向上しているようだ。

D．選択科目選択時の重視点

必修科目以外の科目をどのような理由で選択するか調べるため、次の質問をしてみた。

問４　必修以外の授業科目を選択する場合、重視する点は何ですか？（１つ選択）
１.単位取得の容易さ　２.免許・資格との関わり　３.興味深さ
４.友人が受講するか否か　５.教員の人柄　６.その他



結果は以下のようになった。

＊　無回答には複数回答者も含まれる

グラフからわかるように、「３．興味深さ」を重視する学生が 57.5%と一番多い。次いで「１．単位取得」が 26.5%、「２．免許・資格」が 11.1%と続いている。それ以外はほとんどいない。必修以外の科目の選択においては、自分の関心のある勉強や単位取得の容易さなどが重視され、免許・資格など将来役立つと思われる科目はあまり選択されていなかった。

次に性別でクロス集計を行なったところ、男女の間で回答に有意差が見られた。

パーセント（行）：性別，問4

	1.単位取得	2.免許・資格	3.興味深さ	4.友人	5.教員の人柄	6.その他	7.無回答	合計
1.女	18.4	17.3	62.0	.6	1.0	.4	.4	100.0
2.男	28.2	9.7	56.5	1.4	1.9	1.0	1.2	100.0
3.無回答	27.9	11.5	59.0	0.0	1.6	0.0	0.0	100.0
合計	26.5	11.1	57.5	1.2	1.8	.9	1.0	100.0

「１．単位取得」において男性が 28.2%、女性が 18.4%と男性の方が女性より「１．単位取得」を重視しているのがわかった。逆に「２．資格・免許」においては女性が 17.3%、男性が 9.7%と女性の方が重視している。男性は容易さを重視して、女性は自分の興味や、資格・免許などやりたいことが明確になっている。全体的な割合に大きな変化はない。

次に学年別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

パーセント（行）：学年，問4

	1.単位取得	2.免許・資格	3.興味深さ	4.友人	5.教員の人柄	6.その他	7.無回答	合計
1年	27.0	15.0	53.8	1.4	.9	.7	1.1	100.0
2年	28.7	9.9	55.7	1.4	1.6	1.1	1.5	100.0
3年	24.1	8.3	62.3	1.0	2.6	1.0	.5	100.0
4年	30.6	6.1	59.2	0.0	2.0	0.0	2.0	100.0
無回答	25.5	9.8	60.8	0.0	2.0	0.0	2.0	100.0
合計	26.5	11.1	57.5	1.2	1.8	.9	1.0	100.0

「２．免許・資格」を選択した学生の割合は、１年が 15.0%と他の学年に比べの割合が最も高く、学年が上がるごとに割合が低くなっている。学年が上がるごとに忙しくなったり、取得できる免許・資格が、当初期待していた程のものではなかったためだと考えられる。また「3. 興味深さ」では、学年が上がるごとに割合が増えているが、これは大学の授業選択システムを理解し、ある程度自分の興味のある科目が選択で

当初期待していた程のものではなかったためだと考えられる。また「3. 興味深さ」では、学年が上がるごとに割合が増えているが、これは大学の授業選択システムを理解し、ある程度自分の興味のある科目が選択できるようになったためだと思われる。

E．受講態度(自己)について

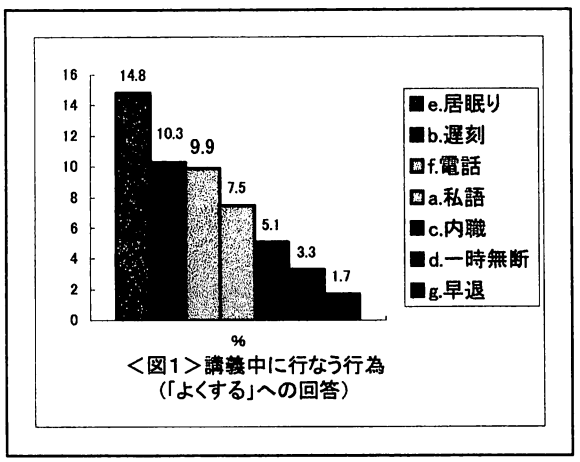
（１）　講義中の態度

講義中に好ましくない行為をどの程度行なっているか調べるために次の質問をした。

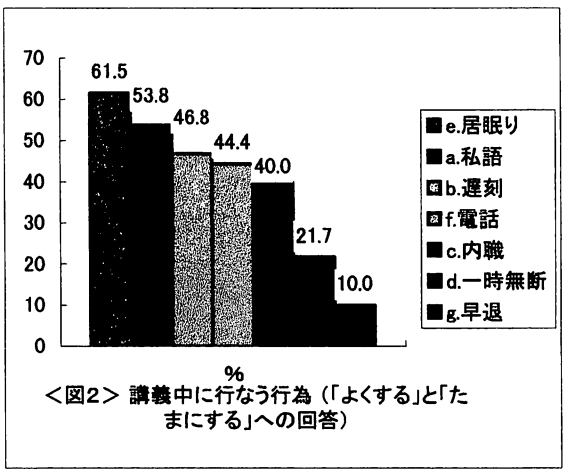
問５　あなたは講義受講中に次のようなことをどの程度していますか？

	よくする	たまにする	ほとんどしない	全くしない
a.　私語	1	2	3	4
b.　遅刻	1	2	3	4
c.　内職	1	2	3	4
d.　一時無断退室	1	2	3	4
e.　居眠り	1	2	3	4
f.　電話(メール)	1	2	3	4
g.　早退	1	2	3	4

講義中に自己が行なう行為として、「１．よくする」に注目すると＜図 1＞から「居眠り」の割合が高く(14.8%)、次に「遅刻」(10.3%)、「電話」(9.9%)と続いた。「１．よくする」と「２．たまにする」を含めて「する」と見ると＜図２＞より、「居眠り」(61.5%)、「私語」(53.8%)、「遅刻」(46.8%) の順になる。２位に私語が入った理由については、次のことが考えられる。「１．よくする」という項目だけで比較すると、「居眠り」(14.8%)、「遅刻」(10.3%)、「私語」(7.5%)の順になる。私語をよくする人は居眠りをよくする人の半分である。ところが、「２．たまにする」という項目を比較すると、「私語」(46.2%)、「居眠り」(46.4%)と非常に似かよった数値である。一方、遅刻はぐっと下がって(36.4%)になる。このことから、ごく一部に講義中に毎回私語をする悪質な常習犯が若干いること、大部分はついしてしまうのではと推測される。遅刻は常習犯が多く、する人としない人の差が大きいといえる。



＜図1＞講義中に行なう行為
(「よくする」への回答)

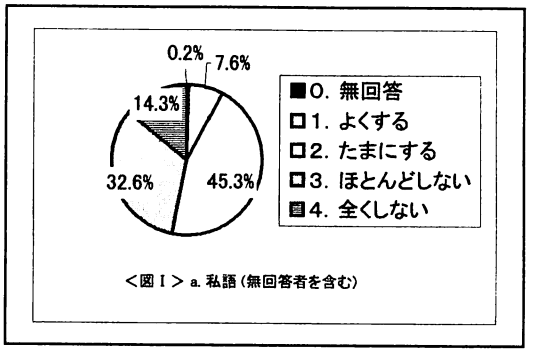


＜図2＞ 講義中に行なう行為（「よくする」と「たまにする」への回答）

以下、それぞれの項目ごとに考察する。

a.　私語

全体として私語を「2．たまにする」という人が 45.3%いた。
また、「1．よくする」という人含めると、本学学生の５割が講
義中に私語をするという結果が得られる。



<図Ｉ> a. 私語（無回答者を含む）

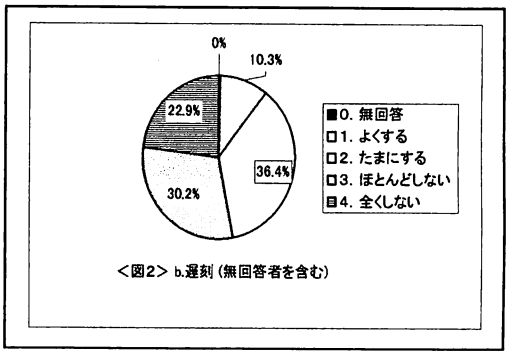
性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値がく.0001 となり有意差が見られた。「1. よくする」と「２．たまにする」を含めて「する」と見ると、<表１>より女性は 60.6%、男性は 52.2%である。女性のほうが男性より講義中に私語をしていることがわかった。女性の方が「講義に対する集中力に欠ける」という傾向がやや強いという結果が得られた。理由として男女間で講義に対する考え方が異なり、選び方に反映しているのかと思い問４(選択科目の選択時の重視点)と性別のクロス分析を比較した。必修以外の講義を女性は「３．興味深さ」を、男性は「１.単位取得」を重視して選んでいる。男性は進級条件に迫られているのか現実的である。女性は余裕があるため私語をするのか講義に対する姿勢に差がある。

	1. よくする	2. たまにする	3. ほとんどしない	4. 全くしない	合計
1. 女性	8.4	52.2	31.4	8.0	100.0
2. 男性	7.3	44.9	32.1	15.7	100.0
合計	7.5	46.2	32.0	14.3	100.0

<表１　男女別私語の割合>

b.　遅刻

全体として遅刻を「１．よくする」という人が 10.3%いた。10 人に１人が常習犯である。また、「１．よくする」と「２．たまにする」を合わせた数値を見ると 46.7%、「３．ほとんどしない」と「４.全くしない」を合わせた数値は 52.9%である。遅刻をするグループとしないグループが拮抗している。どちらかというとしないほうが多い。



<図2> b.遅刻（無回答者を含む）

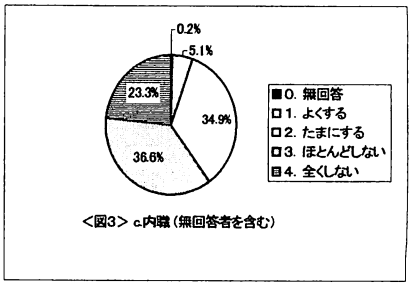
学年とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値がく.0001 となり有意差が見られた。「１．よくする」と「２.たまにする」とを合わせた数値で見ると<表２>より１年生 41%、２年生は 49.7%、３年生は 49%、４年生は 50.2%である。１年生は遅刻する人の割合がいちばん少なく、学年が上がるごとに少しずつ増加している。４年生においては半数の人が遅刻をおり、学年が上がると気の緩みが出てくるのか、「講義に出席しなければいけない」という危機感が薄くなっていると考えられる。

	1. よくする	2. たまにする	3. ほとんどしない	4. 全くしない	合計
1年	10.2	30.8	30.9	28.1	100.0
2年	9.9	39.8	29.3	20.9	100.0
3年	10.7	39.5	30.2	19.5	100.0
4年	8.2	40.8	32.7	18.4	100.0
合計	10.3	36.5	30.3	22.9	100.0

<表２学年別遅刻の割合>

c.　内職

全体として内職を「２．たまにする」という人が 34.9%、「3. ほとんどしない」という人が 36.6%いた。３人に１人が「たまにする」または「ほとんどしない」と答えている。また、「３．ほとんどしない」と「4. 全くしない」を合わせると、6 割近くの人が内職をしないという結果が得られた。全体的に真面目に講義に集中しているといえる。



<図3> c.内職（無回答者を含む）

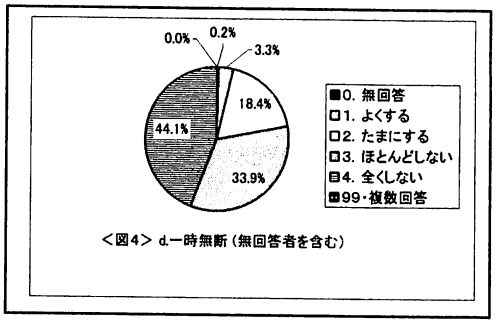
性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が<.0001となり有意差が見られた。「１．よくする」と「２．たまにする」とを合わせた数値で見ると、<表３>より女性は46.5%、男性は38.3%がすると答えている。女性のほうが男性より講義中に内職をする事がわかった。

	1. よくする	2. たまにする	3. ほとんどしない	4. 全くしない	合計
1. 女性	3.6	42.9	38.5	14.9	100.0
2. 男性	5.4	32.9	36.4	25.3	100.0
合計	5.1	34.7	36.8	23.4	100.0

<表３　男女別内職の割合>

d.　一時無断退室

全体として一時無断退室を「１．よくする」という人が18.4%と５人に１人の割合でいた。「4.　全くしない」という人が44.1%いた。また、「3.　ほとんどしない」という人を含めると、８割近くの人が一時無断退室をしないという結果が得られた。



<図4> d.一時無断（無回答者を含む）

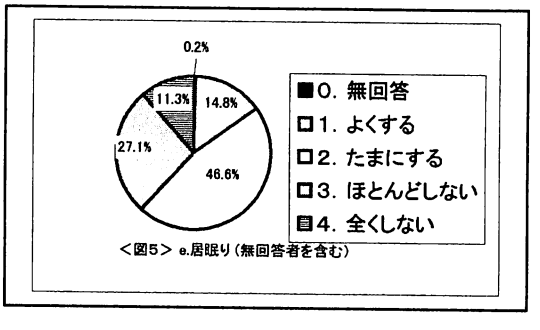
学年とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が<.0001となり有意差が見られた。<表４>より学年が上がるごとに「２．たまにする」という割合が増加し、「４．全くしない」という割合が減少している。学年が上がるごとに講義に慣れてくるのか、遅刻と同様に一時無断退室に対して危機感が薄いと考えられる。

	1. よくする	2. たまにする	3. ほとんどしない	4. 全くしない	合計
1年	2.7	13.1	30.3	54.0	100.0
2年	4.2	18.9	36.3	40.6	100.0
3年	3.1	23.5	34.9	38.4	100.0
4年	4.1	20.4	42.9	32.7	100.0
合計	3.3	18.5	33.8	44.5	100.0

<表４　学年別一時無断退室の割合>

e.　居眠り

全体として居眠りを「2.　たまにする」人が46.6%いた。また、「1.　よくする」という人を含めると、６割近くの人が居眠りをするという結果が得られた。

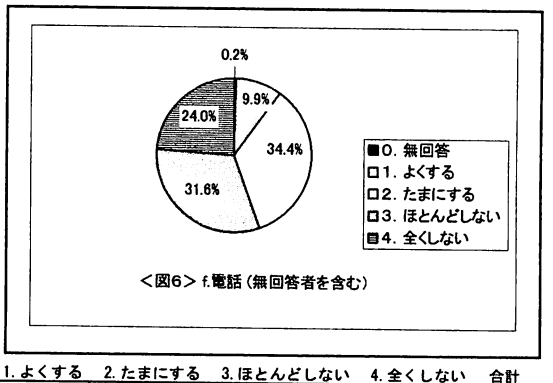


<図5> e.居眠り（無回答者を含む）

この項目について様々な属性とクロスさせたが、有意差のある結果は得られなかった。

f.　電話

全体として電話を「１．よくする」という人が9.9%いた。10人に１人が常習犯である。また、過半数の人は電話をせず真面目だが、「２．たまにする」いう人を含めると４割の人が講義中に電話をするという結果が得られた。



<図6> f.電話（無回答者を含む）

性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が<.0001となり有意差が得られた。<表５>より女性で講義中に電話をすると答えた人は54.2%、しないと答えた人は45.7%いた。男性ですると答えた人は42.2%、しないと答えた人は57.6%いた。男女間で割合が逆転している。女性の方が男性より電話をしている事がわかる。

	1. よくする	2. たまにする	3. ほとんどしない	4. 全くしない	合計
1. 女性	9.1	45.1	30.1	15.6	100.0
2. 男性	10.1	32.3	31.6	26.0	100.0
合計	9.9	34.6	31.4	24.2	100.0

<表５　男女別電話の割合>

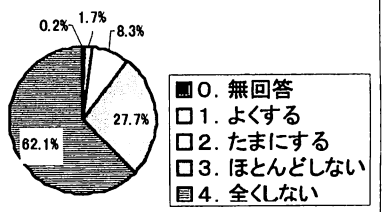
また、学部別で見ると＜表６＞より、講義中に電話をする人の割合が最も高いのは理学部で46.7%、総合情報学部が38.4%と他の学部に比べて若干少ない。これは学部ごとに男女間の割合が異なり、理学部と総合情報学部では男性より女性が多いためと考えられる。

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	合計
1.理学部	10.7	36.0	28.8	24.5	100.0
2.工学部	9.2	35.1	33.6	22.1	100.0
3.総合情報学部	9.4	29.0	34.5	27.1	100.0
合計	9.9	34.5	31.6	24.0	100.0

＜表６　学部別電話の割合＞

早退

全体として早退を「4. 全くしない」という人が 62.1%いる。また、「3. ほとんどしない」という人を含むと、9割近くの人が講義中に早退をしないという結果が得られた。



＜図7＞ g.早退（無回答者を含む）

学年とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が<.0001となり有意差が得られた。「1.よくする」と「2.たまにする」を合わせた数値を見ると＜表７＞より、１年生は6.9%、２年生は10.5%、３年生は12.8%、４年生は12.2%である。学年が上がるごと「2. たまにする」という割合が増加し、「4. 全くしない」という割合が減少している。講義に慣れてくるのか遅刻や一時無断退室と同様に危機感がないといえる。

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	合計
1年	1.0	5.9	23.1	70.0	100.0
2年	2.5	8.0	30.3	59.1	100.0
3年	1.8	11.0	30.5	56.7	100.0
4年	2.0	10.2	30.6	57.1	100.0
合計	1.7	8.3	27.8	62.1	100.0

＜表７ 学年別早退の割合＞

F 受講態度(他者)について

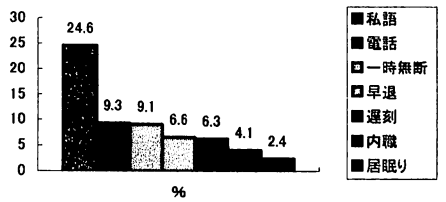
（1） 受講態度

講義中に好ましくない行為を他人が行なっている時、どのくらい気になるか調べるために次の質問をした。

問６ 講義中に周りの人が次のような行為をすることに対してどう思いますか？

	すごく気になる	少し気になる	あまり気にならない	全く気にならない
a. 私語	1	2	3	4
b. 遅刻	1	2	3	4
c. 内職	1	2	3	4
d. 一時無断退室	1	2	3	4
e. 居眠り	1	2	3	4

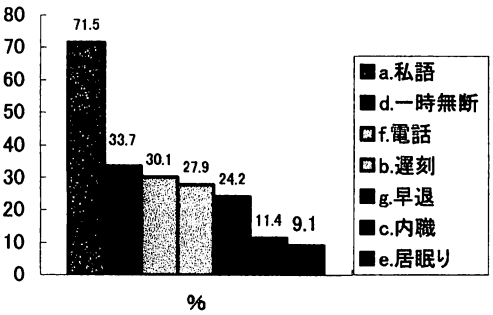
講義中に気になる他人の行為について、「1.すごく気になる」に注目すると＜図１＞より「私語」の割合が最も高く(24.6%)、次に「電話」(9.3%)、「一時無断退室」(9.1%)が続いた。また、「2.少し気になる」という人を含めて「気になる」と見ると、＜図２＞より「私語」(71.5%)、「一時無断退室」(33.7%)、「電話」(30.1%)の順になる。2位と3位が入れかわった理由として、次のことが次のことが考えられる。「1.すごく気になる」という項目を比較すると「電話」(9.3%)、「一時無断退室」(9.1%)と非常に似かよっている。「2.少し気になる」という項目を比較すると「一時無断退室」(24.5%)、「電話」(20.7%)である。他人の気になる行為として「一時無断退室」の方を強く意識するようだ。問５のワースト３位と比較すると、「居眠り」が入っていないので、他人の居眠りは気にならないようだ。



<図1>気になる他人の行為（「すごく気になる」への回答）

順位

1位	私語
2位	電話
3位	一時無断退室



<図2> 気になる他人の行為(「すごく気にする」と「少し気にする」への回答)

順位

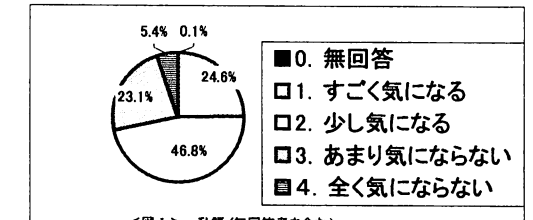
1位	私語
2位	一時無断退室
3位	電話

気になるものと気にならないものが３段階に分かれている。<図２>より、最も気になるものは「私語」(71.5%)で、やや気になるものは「一時無断」(33.7%)、「電話」(30.1%)、「遅刻」(27.9%)、「早退」(24.2%)である。3人に1人が気になると答えている。あまり気にならないものは「内職」(11.4%)、「居眠り」(9.1%)である。10人に1人は他人に迷惑をかける行為とは考えていないようだ。

以下、それぞれの項目ごとに考察をする。

a.　私語

全体として私語について「2. 少し気になる」と答えた人が 46.8%いた。また、「1. すごく気になる」という人を含めると、7 割近くが他人の私語が気になっていることがわかった。



<図１> a.私語（無回答者を含む）

性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が<.0001となり有意差が見られた。<表１>より、「1.すごく気になる」と「2.少し気になる」と含めて「気になる」と見ると、女性が 76%、男性が 70%である。男性より女性の方が周りの私語を気にしている事がわかった。問５の(a.私語)と合わせると女性のほうが私語をしている他人の私語が気になるようだ。

	1.すごく気になる	2.少し気になる	3.あまり気にならない	4.全く気にならない	合計
1.女性	19.8	56.2	22.1	1.9	100.0
2.男性	25.8	45.0	23.1	6.0	100.0
合計	24.7	47.0	22.9	5.3	100.0

<表１ 性別私語が気になる割合>

次に、自分の行為と他者の行為を比較するために問５と問６をクロスさせた。＜表２＞より、私語をしない人で私語が気になると答えた人が 78.7%いる。自ら私語をする人は他人の私語が気にならないと答えている。しない人が他人の私語を強く意識しているようだ。

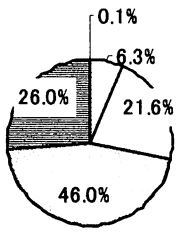
パーセント（行）　：　問5私語，問6私語

	1. 気にする	2. 気にしない	合計
1. する	65.3	34.7	100.0
2. しない	78.7	21.3	100.0
合計	71.5	28.5	100.0

＜表 2 私語について問 5 と問 6 の比較＞

b.　遅刻

全体として遅刻について「3. あまり気にならない」答えた人が 46.0%いた。また、「4. 全く気にならない」と答えた人を含めると７割の人が気にならないことがわかった。



＜図2＞ b.遅刻（無回答者を含む）

次に、自分の行為と他者の行為を比較するために問５と問６をクロスさせた。＜表３＞より遅刻をしなくて気にすると答えた人は 66.0%、遅刻をしなくて気にすると答えた人(34.0%)の２倍だった。自ら遅刻をする８割の人が遅刻は平気、自分もするが他人の遅刻は気にならない、遅刻に対して鈍感だといえる。

パーセント（行）　：　遅刻，遅刻. 2

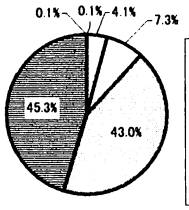
	1. 気にする	2. 気にしない	合計
1. する	21.2	78.8	100.0
2. しない	34.0	66.0	100.0
合計	28.0	72.0	100.0

＜表 3 遅刻について問 5 と問 6 の比較＞

c.　内職

全体として内職について「３. あまり気にならない」と
答えた人が 43.0%いた。また、「４. 全く気にならない」という人を含めると９割近くの人が気にならないことがわかった。

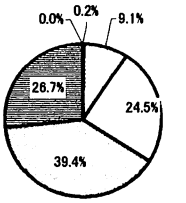
この項目について様々な属性とクロスさせたが、有意差のある結果は得られなかった。



＜図3＞ c. 内職（無回答者と複数回答者を含む）

d.　一時無断

全体として一時無断退室について「３. あまり気にならない」と答えた人が 39.4%いた。また、「４. 全く気にならない」という人を含めると 7 割弱の人が気にならないことがわかった。



＜図4＞ d.一時無断（無回答者と複数回答者を含む）

次に、自分の行為と他者の行為を比較するために問５と問６をクロスさせた。＜表４＞より、一時無断退室をしない人で気にしないという人は 63.4%、

しない人で気にするという人(36.6%)の2倍だった。する人で気にする人は23.5%、する人で気にしない人は76.5%である。自らする人を含め多くの人が一時無断退室を気にしないことがわかった。

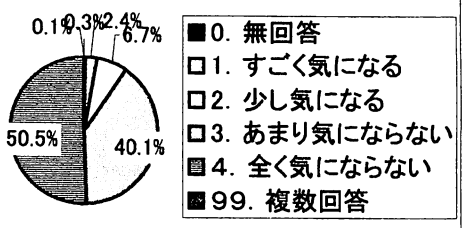
パーセント（行）　：　一時無断，一時無断.2

	1.気にする	2.気にしない	合計
1.する	23.5	76.5	100.0
2.しない	36.6	63.4	100.0
合計	33.8	66.2	100.0

＜表4　一時無断について問5と問6の比較＞

e.　居眠り

全体として居眠りについて「3.あまり気にならない」と答えた人は40.1%いた。また、「4.全く気にならない」という人を含めると、9割の人が気にならないということがわかった。



＜図5＞ e.居眠り（無回答者と複数回答者を含む）

次に、自分の行為と他者の行為を比較するために問5と問6をクロスさせた。＜表5＞より、居眠りをしない人で気にする人は12.5%、気にしない人は87.5%いた。居眠りをする人で気にする人は6.9%、気にしない人は93.1%いた。気にする人と気にしない人で差は出るが、他人の居眠りは邪魔に感じず、講義に支障は出ていないといえる。

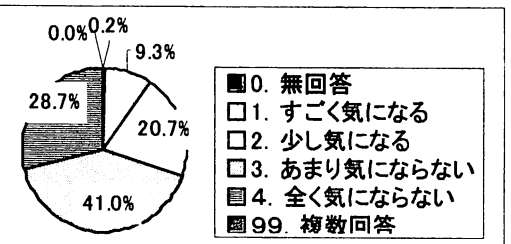
パーセント（行）　：　居眠り，居眠り.2

	1.気にする	2.気にしない	合計
1.する	6.9	93.1	100.0
2.しない	12.5	87.5	100.0
合計	9.1	90.9	100.0

＜表5　居眠りについて問5と問6の比較＞

f.　電話

全体として電話について「3.あまり気にならない」と答えた人は41.0%いた。また、「4.全く気にならない」という人を含めると7割の人が気にならないということがわかった。



＜図6＞ f.電話（無回答者と複数回答者を含む）

次に、自分の行為と他者の行為を比較するために
問5と問6をクロスさせた。＜表6＞より、電話
をしなくて気にするという人が60.6%、気にしない人(39.4%)の1.5倍いた。電話をする人で気にする人が18.5%、気にしない人が81.5%いた。電話を気にしないという人は6割と多いが4割は気になると答えている。

パーセント（行）　：　電話，電話.2

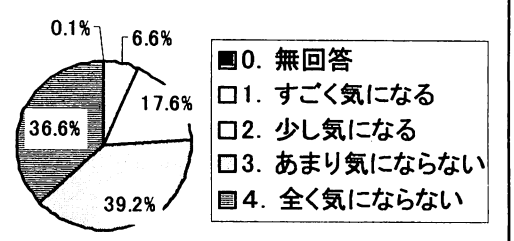
	1.気にする	2.気にしない	合計
1.する	18.5	81.5	100.0
2.しない	39.4	60.6	100.0
合計	30.1	69.9	100.0

＜表6 電話について問5と問6の比較＞

g.　早退

全体として早退について「3.あまり気にならない」と答えた人が39.2%いた。また、「4.全く気にならない」という人を含めると7割の人が気にならないということがわかった。

この項目について様々な属性とクロスさせた



＜図7＞ g.早退（無回答者を含む）

が、有意差のある結果は得られなかった。

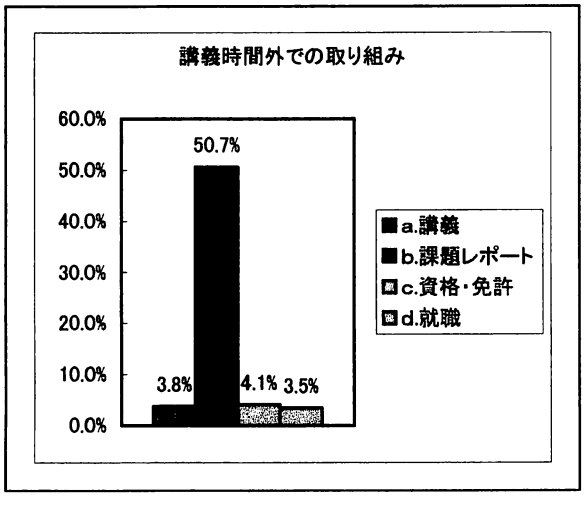
G.　講義時間外での取り組み

講義時間外にどのような取り組みを行なっているか調べるため、次の質問をしてみた。

問７　講義時間外で次のようなことをどれくらいしていますか？

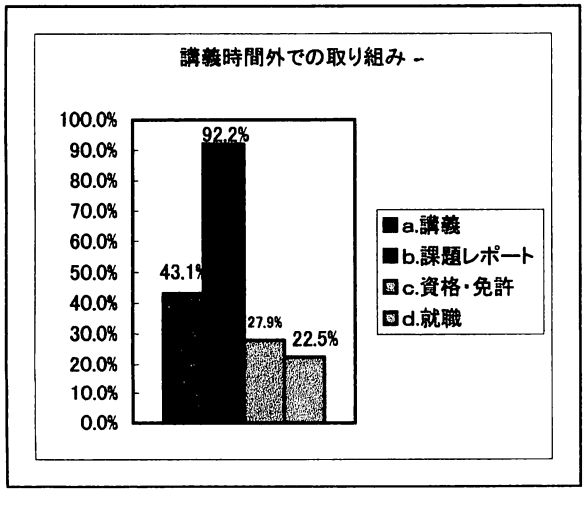
	よくする	たまにする	ほとんどしない	全くしない
a.講義の予習復習	1	2	3	4
b.課題レポートなど	1	2	3	4
c.資格・免許の学習	1	2	3	4
d.就職の準備	1	2	3	4

まず、質問項目ごとに一番取り組んでいる活動を調べるため「1.よくする」を選んだ学生の割合を調べてみた。



「1．よくする」を選んだ学生の割合は、1位「課題レポート」50.7%、2位「資格・免許」4.1%、3位「講義の予習・復習」3.8%、4位「就職準備」3.5%、と「課題レポート」以外の取り組みはほとんどしていない。「課題レポート」の取り組みの割合がここまで高く、講義の予習・復習の割合が意外に低いのは、普段の講義での宿題（課題）のほとんどがレポート形式になっているためだと思われる。そして、約半数の 50.7%の学生が課題に適切に対応している。

次に、「1．よくする」と「2．たまにする」を選んだ学生の割合を調べた。

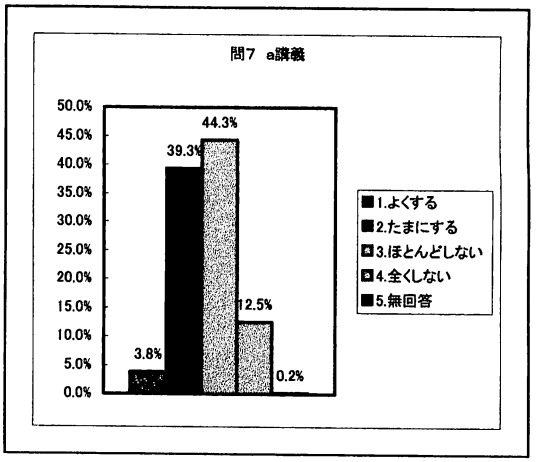


「1．よくする」と「2．たまにする」の合計で見てみると、1位「課題レポート」92.2%、2位「講義の予習・復習」43.1%、3位「資格・免許」27.9%、4位「就職の準備」22.5%と弱冠の違いが出てくる。特に「講義の予習・復習」では、「1．よくする」と答えた学生の割合に対し「2．たまにする」と答えた学生の割合が非常に高い。「課題レポート」以外の宿題が、予習・復習という形で取り組まれていると考えられる。

次に項目ごとに調べた。

ａ．講義の予習・復習

全体では「３．ほとんどしない」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「２．たまにする」の割合が 39.3%と高い。半分以上の 56.8%の学生がしない（「３．ほとんどしない」と「４．全くしない」）と答えているが、「２．たまにする」と答えた学生の割合も高く、する学生としない学生がはっきりと別れているのがわかる。



次に学年別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

学年別に見てみると、「１．よくする」と「２．たまにする」の割合が学年が上がるごとに下がっている。これは、学年が上がるごとに学校生活に慣れて要領がよくなり、余裕ができ始めたためと考えられる。

パーセント（行）　：　学年，問7講義

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
1年	4.4	42.7	40.9	11.7	.3	100.0
2年	4.4	38.5	42.3	14.6	.3	100.0
3年	2.6	36.8	49.0	11.5	0.0	100.0
4年	2.0	34.7	49.0	14.3	0.0	100.0
無回答	3.9	35.3	43.1	17.6	0.0	100.0
合計	3.8	39.3	44.3	12.5	.2	100.0

次に問４として（選択科目選択時の重視点）とクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

全体

「４．全くしない」と答えた学生の 44.8%が「１．単位取得」を選択しており最も高い。逆に、「１．よくする」と「２．たまにする」と答えた学生の割合は、「２．免許・資格」、「３．興味深さ」を選択した学生が高く、講義の予習・復習をしているようである。免許・資格や興味深さなど勉強志向の強い学生と、そうでない学生の違いが見られる。

パーセント（行）　：　問7講義，問4

	1.単位取得	2.免許・資格	3.興味深さ	4.友人	5.教員の人柄	6.その他	7.無回答	合計
1.よくする	20.4	12.4	58.4	.9	4.4	1.8	1.8	100.0
2.たまにする	18.1	13.7	64.4	1.2	1.4	.6	.6	100.0
3.ほとんどしない	29.4	9.7	56.5	1.0	1.7	.6	1.2	100.0
4.全くしない	44.8	7.4	39.8	2.4	2.1	2.7	.8	100.0
5.無回答	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	100.0
合計	26.5	11.1	57.5	1.2	1.8	.9	1.0	100.0

女性

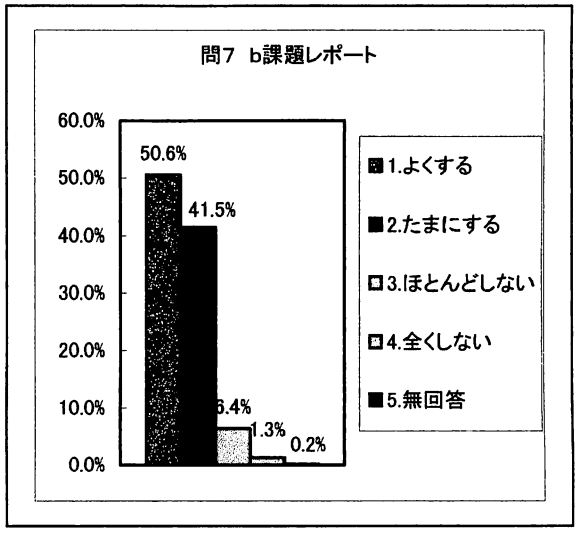
「３．ほとんどしない」、「４．全くしない」と答えた学生の割合は、「１．単位取得」を選択した学生の割合が高い。逆に、「１．よくする」と答えた学生の割合は 80.0%と「３．興味深さ」を選択した学生の割合が圧倒的に高い。女性の方がするかしないか、はっきりとした結果が出ている。

パーセント（行）　：　問7講義，問4

	1.単位取得	2.免許・資格	3.興味深さ	4.友人	5.教員の人柄	6.その他	7.無回答	合計
1.よくする	5.0	10.0	80.0	0.0	5.0	0.0	0.0	100.0
2.たまにする	13.0	19.6	65.7	.9	.4	0.0	.4	100.0
3.ほとんどしない	20.5	17.4	60.7	.5	.5	.5	0.0	100.0
4.全くしない	37.5	10.7	46.4	0.0	3.6	1.8	0.0	100.0
5.無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
合計	18.4	17.3	62.0	.6	1.0	.4	.4	100.0

b．課題レポートなど

課題レポートは「a．講義の予習・復習」に比べ、している学生の割合が高い。「1．よくする」が50.6%、「2．たまにする」が 41.5%と両方合わせると 92.1%とほぼ9割の学生が課題レポートをしている。課題レポートが宿題の形で出されたり、テストになったりすることが多いためだと思われる。まず性別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。



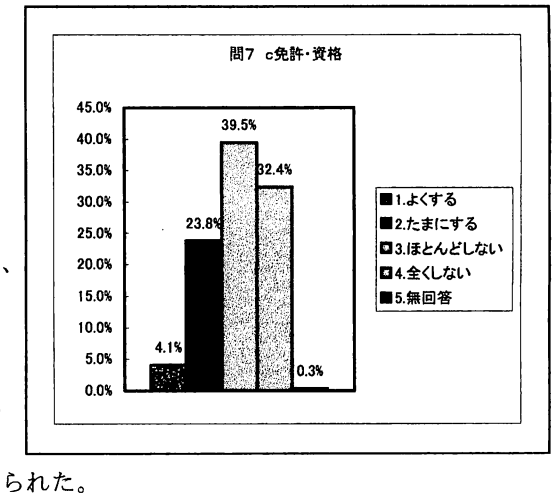
「1．よくする」と答えた学生の割合は、女性が62.3%、男性が48.2%と女性の方がしている割合が高い。両方ともよく課題レポートに取り組んでいるが、女性の方が熱心であることが窺われる。

パーセント（行）：性別，課題レポ

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
1.女	62.3	33.3	3.2	1.1	0.0	100.0
2.男	48.2	43.3	7.0	1.3	.1	100.0
3.無回答	47.5	41.0	8.2	3.3	0.0	100.0
合計	50.7	41.5	6.4	1.3	.1	100.0

c．資格・免許の学習

資格・免許の学習は「1．よくする」が 4.1%、「2．たまにする」が23.8%としている割合は27.9%と約3割、「3．ほとんどしない」が39.5%、「4．全くしない」が32.4%としていない割合は71.9%と約7割と、ほとんどの学生がしていない。問4でも「2．免許・資格との関わり」を選んだ学生の割合は11.1%と低く、学内、学外共に免許・資格に関わる学習の機会は少ないようである。



まず性別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

「1．よくする」、「2．たまにする」と答えた学生の割合は、女性が34.5%、男性が26.4%と女性の方が男性より弱冠、免許・資格の取得の活動をしている割合が高い。

パーセント（行）：性別，資格免許

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
1.女	4.6	29.9	39.6	25.9	0.0	100.0
2.男	3.9	22.5	39.7	33.6	.3	100.0
3.無回答	4.9	23.0	29.5	42.6	0.0	100.0
合計	4.1	23.8	39.5	32.4	.2	100.0

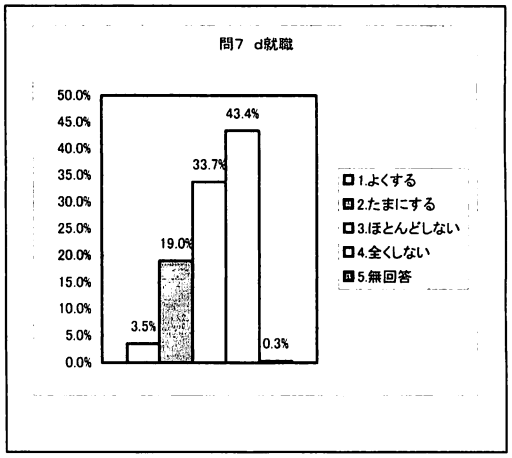
次に学年別でクロス集計を行なったところ、有意差

パーセント（行）：学年，資格免許

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
1年	3.0	16.2	41.5	38.9	.4	100.0
2年	3.4	22.1	37.0	37.3	.3	100.0
3年	5.5	32.3	39.7	22.4	.1	100.0
4年	4.1	36.7	28.6	30.6	0.0	100.0
無回答	5.9	19.6	41.2	33.3	0.0	100.0
合計	4.1	23.8	39.5	32.4	.2	100.0

d．就職の準備

就職の準備は、「1．よくする」が 3.5%、「2．たまにする」が 19.0%としている学生の割合は 22.5%と約２割、「3．ほとんどしない」が 33.7%、「4．全くしない」43.4%としていない学生が 78.1%と約８割と、ほとんどの学生がしていない。当然であるが、就職の準備をしているのは、主に３・４年生であり他の学年の学生はほとんどしていないためだと考えられる。



まず学年別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

パーセント（行）：学年，就職準備

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
1年	1.2	4.6	32.2	61.5	.5	100.0
2年	1.9	7.5	34.6	55.6	.5	100.0
3年	6.2	40.7	35.4	17.6	.1	100.0
4年	20.4	42.9	24.5	12.2	0.0	100.0
無回答	3.9	23.5	27.5	45.1	0.0	100.0
合計	3.5	19.0	33.7	43.4	.3	100.0

「1．よくする」、「2．たまにする」と答えた学生の割合は４年が、63.3%と圧倒的に高く、全体で見ても学年が上がるごとに就職準備をしている割合が増えている。逆に、「4．全くしない」と答えた学生の割合は 1 年が 61.5%、2 年が 55.6%に対し、3 年は 17.6%、4 年は 12.2%と大きく違う。就職準備は 2 年まではほとんどしておらず、3 年から始める学生が多いと考えられる。

次に学部別でクロス集計を行なったところ、有意差が見られた。

パーセント（行）：学部，就職準備

	1.よくする	2.たまにする	3.ほとんどしない	4.全くしない	5.無回答	合計
工学	3.5	20.6	33.9	41.9	.2	100.0
総合情報	2.9	15.6	37.0	43.8	.8	100.0
理学	3.7	18.9	32.4	44.6	.3	100.0
合計	3.5	19.0	33.7	43.4	.3	100.0

「1．よくする」、「2．たまにする」とこたえた学生の割合は、工学部が 24.1%と最も高い。問 1 の大学進学からもわかるように、工学部の学生は他の学部に比べて就職に対する意識が強い。

最後に

以上、調査報告（その１）においては、調査項目のうち、A.の大学進学の理由から、G.の講義時間外の取り組みまでを報告した。本調査では、大学進学や学課選択、学業に取り組む姿勢が明らかになった。残りの調査項目の報告と合わせて、我々の学生への対応の課題と今後の課題を、調査報告（その２）に述べる。

Survey on University Students' Attitudes toward Obtaining Certificates and Licenses: Attitudes and Interests of Okayama University of Science Students (First report)

-An attitude and an interest in studies and acquiring licenses and certificates of students of Okayama University of Science-

Masahiko SOGA, Hironori NAKAJIMA, Etsuji KOYAMA*,
Tokiho OHMORI**, Yuusuke AOYAMA** Toyohisa MIYAJI**, Toshinori TSUBOI**,
Eriko FURUTA**, Syota ORII**, Yousuke HATAKEYAMA**, Chie INOUE**
Okayama University of Science Department of Applied Science
1-1 Ridaicho Okayama 700-0005 Japan
**Kurashiki University of Science and the Arts 2640 Nishinoura Tsurashima Kurashiki Okayama*
710-0000 Japa
*** Okayama University of Science Department of Applied Science, Science of Education*
1-1 Ridaicho Okayama 700-0005 Japan
(Received November 1, 2002)

An evaluation of university is influenced by the rate of employment of students. Students also want added value to university education. We are expanding positive support to the students for acquiring licenses and certificates to raise the rate of employment and append added value to university education.

We thought it is important to understand the students' accurate need and opinion to support students more effectively. For this reason, this survey is conducted to know an attitude and an interest in studies and acquiring licenses and certificates of students. Objects of this survey were students of Okayama University of Science, Kurashiki University of Science and the Arts, Kibi International University and Kyusyu University of Health and Welfare.